**令和７年度**

**国立大学法人筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター**

**植物研究拠点アライアンス（Plant Science Core Alliance: PSCA）**

**プラチナ枠共同研究課題公募要領**

植物研究拠点アライアンス (Plant Science Core Alliance; PSCA) は、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点の内、主として植物の研究を実施する拠点が連携し、植物研究を強化するために設置された拠点連合です。PSCAに参加する５拠点は次のとおりです。

・筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」

・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」

・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」

・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

・大阪公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」

PSCAの詳細はホームページをご覧ください。<https://psca-jurc.com/>

　PSCAでは、「アライアンス・プラチナ枠」による共同研究を開始します。「アライアンス・プラチナ枠」は、申請者が２拠点以上の対応教員とチームを組み、それらの拠点の特長を生かして、設置された施設・設備を利用して行う共同研究です。

つくば機能植物イノベーション研究センターでは、「アライアンス・プラチナ枠」としての一般研究を募集します。

なお、「アライアンス・プラチナ枠」は、公募の時期や締め切りが、従来の共同研究公募と異なっていますので、ご注意ください。

　ご不明の点があれば下記アドレスまで電子メールでお問い合わせください。

　E-mail: [ptrad@gene.tsukuba.ac.jp](mailto:ptrad@gene.tsukuba.ac.jp)

1. **公募する共同研究テーマ**

**つくば機能植物イノベーション研究センターが実施している形質転換植物に関する基盤研究から情報発信に至る６つの部門に係る研究、かつ植物研究拠点アライアンス２拠点以上の施設・設備を利用した研究。**

**１―１．筑波大学**



**（１）基礎技術研究グループ【研究グループ長：柴 博史】**

　本研究グループでは、植物における形態、環境応答や植物-微生物相互作用に関わる実用遺伝子の探索を行います。また、植物における機能物質の産生・蓄積に関わる遺伝子の探索を行います。さらに、これら有用遺伝子からタンパク質を植物体内で発現させることで、その機能解析に取り組んでいます。

　本研究グループでの共同利用・共同研究では、変異体のスクリーニング、多重変異体の作成、遺伝子発現レベルの解析、植物体内でのタンパク質発現等に関する技術支援が可能です。

（具体的な共同利用・共同研究）

1. 植物の形態や環境応答制御及び植物-微生物相互作用に関わる実用遺伝子探索
2. 植物における機能物質生産に関わる有用遺伝子探索
3. 植物内にてタンパク質の大量発現とその精製

**（２）実験植物系統基盤研究グループ【研究グループ長：未定】**

　本研究グループでは、トマトなどのモデル作物を対象として、生物遺伝資源の開発、維持、保存、ゲノム解析といった研究基盤整備及びそれを利用した研究開発を行います。本研究グループでの共同利用・共同研究では、保有しているトマト野生種や栽培品種の他、モデル系統マイクロトムの大規模な変異誘発系統を活用していただき、重要形質（果実重や収量、機能性代謝産物の産生と蓄積、環境応答や病害微生物に対する抵抗性、植物ホルモン応答など）改良の研究や形質改良に向けた新技術開発あるいはゲノム解析研究に取り組んでいただきます。このグループではマイクロトムを含むトマトの組換え体作出、並びにゲノム編集系統の作出支援も実施します。

（具体的な共同利用・共同研究事例）

1. マイクロトム変異体を活用したゲノミクス・分子遺伝学的研究
2. 逆遺伝学的手法によるマイクロトム変異体の選抜
3. マイクロトムを含むトマトバイオリソースを活用した組換え体・ゲノム編集系統の作出
4. モデル作物の新規リソースの研究基盤整備

**（３）ゲノム編集・形質転換技術利用研究グループ【研究グループ長：松倉 千昭】**

　本研究グループでは、新規植物形質転換技術及びゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の開発、新規機能や高付加価値を有する形質転換植物の開発を中心に研究を行います。具体的には植物・微生物・動物等で単離・同定された各種有用遺伝子を対象に作物等へ導入・発現制御して形質の評価を行います。産業界とも積極的に連携しながら形質転換技術利用の可能性を広げていくことを目指します。

　本研究グループでの共同利用・共同研究では、様々な植物の遺伝子導入技術及びゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の開発、遺伝子の発現調節、遺伝子発現レベルの解析、遺伝子組換え体の基本評価試験等に関する技術支援が可能です。

（具体的な共同利用・共同研究事例）

1. 植物への効率的・効果的な遺伝子導入技術・発現制御技術の開発
2. ゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術の開発
3. 有用物質を蓄積する作物新品種の作出と安全性・特性評価
4. 収量性、耐病性、栽培・加工適性等に関連した高付加価値形質を有する作物新品種の作出

**（４）生物多様性影響評価・リスク管理研究グループ【研究グループ長：菊池 彰】**

　本研究グループでは、形質転換技術を含むバイオテクノロジー由来植物・農作物の野外利用において必須であるリスク評価を特定網室や隔離ほ場で行います。また生物多様性影響評価についてバイオテクノロジー由来植物の評価技術及び管理技術に必要な科学的知見の基盤集積を課題としています。バイオテクノロジー由来植物の特性に応じた生物多様性影響評価手法の応用についても検討を加え、永年性である樹木や栄養体繁殖の草本植物について、それらの性質に応じたバイオテクノロジー由来植物の栽培・管理体系整備を行って行きます。また、管理にかかわり、個別のバイオテクノロジー由来植物について安全性研究を実施し、事例構築を進めます。

　本研究グループでの共同利用・共同研究では、特定網室での個別形質の集中評価、個別の生物多様性影響評価技法と応用、第一種使用規定承認申請等に向けた総合評価及び文書の作成、隔離ほ場での総合的生物多様性影響評価及び管理等の様々なノウハウや実施の技術支援が可能です。またバイオテクノロジー由来植物開発時に留意すべき拡散リスクに関する情報、バイオテクノロジー由来植物の野外利用におけるリスク評価に関する情報提供が可能です。

（具体的な共同利用・共同研究）

1. 特定網室や隔離ほ場における遺伝子組換え植物の栽培・管理手法の事例構築
2. 屋外植栽を念頭に置いた遺伝子組換え植物の栽培・管理手法の事例構築
3. 生物多様性影響評価の新規応用開拓、簡素化など技術開発
4. 生物多様性影響評価について形質転換植物評価技術及び管理技術の基盤確立に関する研究
5. 導入遺伝子の環境拡散リスク評価、拡散防止技術の開発に関する研究

**（５）産学連携実用化評価グループ【研究グループ長：未定】**

　本研究グループでは、モデル作物などを対象としてゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術による品種開発と隔離ほ場、特定網室、フィールドを利用した社会実装研究型共同研究を行います。本研究グループでは、大学間、民間企業などとの共同研究をより積極的に受け入れ、産学官連携による社会実装に向けた出口志向研究を推進していきます。

　本研究グループでの共同利用・共同研究では、ゲノム編集作物等の上市に向けた栽培・生産技術の確立、ゲノム編集作物等の円滑な社会受容に向けた社会実装に対する取り組みに関する情報提供が可能です。

（具体的な共同利用・共同研究）

1. ゲノム編集技術を含む新しい植物育種技術を利用した品種開発
2. フィールドを利用した高生産・高付加価値化を実現する栽培・生産技術の確立
3. ゲノム編集作物等の社会実装に向けた社会受容研究

**（６）ELSI・理解増進グループ【研究グループ長：渡邉 和男】**

　本研究グループでは、形質転換技術を含むバイオテクノロジー由来植物・農作物・飼料・食品・食品添加物等に関する多様な情報（環境影響評価、食品・食品添加物としての安全性評価、飼料としての安全性評価、LMO検知法等を含む）を収集・解析し、新しい評価・検知・解析手法等の開発や目的に応じたバイオテクノロジー由来植物の開発ストラテジーの立案等に資する研究を行います。また、バイオテクノロジー由来植物の社会受容を促進するため、正しい情報を研究者ばかりでなく、広く社会に向けて提供しつつ、双方向討論や体験を通じた理解増進等に資するための効果的手法を開発・実践します。さらにバイオテクノロジーの研究資源としての、遺伝資源及びバイオリソース等の取得や権利管理等の幅広い調査研究等も支援します。さらに、中学・高等学校等における教育や大学の教養教育（遺伝子リテラシー教育を含む）等を通じた社会受容促進に向けた教材開発や効果的手法の開発・実践等についても積極的に取り組みます。

　本研究グループでの共同利用・共同研究では、これまでに蓄積してきたバイオテクノロジー由来植物や関連遺伝資源に関する各種情報・資料・中学高校等の教科書や教材・社会受容に向けた講演会等で使用するプレゼン用パワーポイント・その他を利用していただけます。また、参加型コミュニケーションや教育目的遺伝子組換え実験等の理解増進に向けたさまざまな手法についても、そのノウハウを含め、提供・指導いたします。さらに、実用化を目指す多様なバイオテクノロジー由来植物や関連遺伝資源について、その育成から開発に至る戦略的企画立案についても、法的な課題を含めて情報提供と立案の指導をいたします。

（具体的な共同利用・共同研究事例）

1. 遺伝子組換え植物の環境影響評価に関する国際比較と情報発信
2. 遺伝子組換え植物由来食品の安全性評価に関する新しい評価概念・手法の開発
3. バイオテクノロジー由来植物の社会受容促進に向けた効果的手法の開発と実践
4. 遺伝資源の取得と管理についての研究
5. 中学・高等学校等におけるバイオテクノロジーリテラシー教育のための教材開発と実践

**（７）その他**

　形質転換技術を含むバイオテクノロジー植物のデザインに関わるその他の研究テーマに関する共同利用・共同研究。

**＊なお令和７年度からの拠点継続に伴う拠点内容の一部見直しにより、グループ及びグループ長等が変更される可能性がありますが、採択には影響しません。**

１－２．植物研究拠点アライアンス：大阪公立大学、岡山大学、鳥取大学、琉球大学

各拠点の募集する共同利用・共同研究テーマについては　下記HPを参照すること

・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」

https://www.rib.okayama-u.ac.jp/collaboration/plant-science-core-alliance/

・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」

　https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/kenkyu.html

・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/

・大坂公立大学付属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点

　　　https://www.omu.ac.jp/bg/research/index.html

**2．申請区分**

Pタイプ 　申請を希望する拠点の組み合わせで予算上限額は決まります。

（各拠点における１件当たりの申請上限額）

筑波大学　　　 40万円

岡山大学 　　　30万円

鳥取大学 　　　40万円

琉球大学 　　　20万円

大阪公立大学 　30万円

（※例：筑波大学と琉球大学の2拠点に申請の場合、予算上限額は60万円になります）

**3. 申請資格者**

　申請をする研究代表者は、国公私立大学、公的研究機関に所属し、形質転換植物デザインに関わる研究に従事する教員・研究者とします。なお、大学院生が研究代表者として申請することは認めませんが、研究メンバーとして参加することは可能です。

* 研究組織の変更

研究代表者の変更、研究分担者の追加等が必要となる場合は、変更・追加する者の氏名・所属・職名、及び理由等を事前に受入教員に連絡願います。

**4．研究期間**

　令和７年４月１日～令和８年３月３１日の１年間

（継続のための再応募は妨げないが、同一課題での継続は3年を上限とする）

同一の申請者における重複申請の制限

採択された場合、本センターが別途公募する共同研究に申請できない場合があります。センターで採択されている共同利用・共同研究の課題があり、令和６年度に継続申請する予定がある場合には重複申請の制限があることについて十分ご注意ください。

**5．申請方法**

（１）申請書等の各様式は、つくば機能植物イノベーション研究センター（遺伝子実験センター）及びPSCAのホームページからダウンロードしてご使用ください。

ホームページ： https://psca-jurc.com

　https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp/joint/recruitment/

（２）申請にあたり、事前につくば機能植物イノベーション研究センター形質転換植物デザイン研究拠点構成教員及びPSCA関連教員(別紙１：受入教員表)へ相談のうえ、申請書（様式１）の１ページ目の該当欄に記載ください。

　　　T-PIRC構成教員一覧：<https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp/joint/members/>

**6．申請書提出書類及び期限**

・アライアンス・プラチナ枠共同研究申請書1部

・承諾書1部（研究代表者及び研究分担者の所属長が作成したもの。公印不要）

　上記の必要書類を令和６年１０月１８日（金）までに電子ファイル（PDF）にて下記アドレスへお

送りください。

**7．申請書送付先**

E-mail：ptrad@gene.tsukuba.ac.jp

原本は大切に保管してください。

**8．採択件数**

アライアンス・プラチナ枠（Ｐタイプ）：若干数

**9. 採択結果**

　共同利用・共同研究課題の採否は、アライアンス・プラチナ枠選考会議後、令和６年１１月末に審査結果を電子メールにて内定通知します。採択決定通知は学外の学識経験者を含む形質転換植物デザイン研究拠点運営協議会において決定後、令和７年３月下旬までに、申請者へ直接通知します。

なお、公募申請書類の採択審査によっては申請区分あるいは研究グループの変更を条件とする場合があります。採択となった共同利用・共同研究課題の研究代表者は、別途指示する所定の書類を提出していただきます。また、共同利用・共同研究課題実施にあたり、つくば機能植物イノベーション研究センターにて遺伝子組換え実験を実施する課題担当者においては、本学の遺伝子組換え実験安全管理規定に則り、本学主催の遺伝子組換え実験従事者講習会を受講していただきます。

**10．所要経費**

① 共同利用・共同研究に必要な経費（研究用消耗品及び旅費）のみ支出いたします。

② 共同利用・共同研究に必要な旅費は、本学の旅費規則に基づき算出し、精算払いとします。

**11．研究成果の報告について**

　アライアンス・プラチナ枠共同研究課題の研究代表者は、研究期間終了後から令和８年３月３１日（火）までの間に所定の書式の共同研究報告書を各受入担当教員へ提出してください。

研究期間中あるいは終了後に、本拠点が主催する研究成果報告会にて、共同利用・共同研究課題の研究成果の報告を求めることがあります。（令和８年度開催の植物研究拠点アライアンス交流会（例年５～６月開催）において、オンラインでの成果発表を行っていただく予定です。）

**12．論文の提出**

　アライアンス・プラチナ枠共同研究課題の成果を論文等として発表する場合は、謝辞として「植物研究拠点アライアンス共同研究及び筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）　形質転換植物デザイン研究拠点事業における共同利用・共同研究（英語表記例：This research was supported in part by Cooperative Research Grant #XXXX of the Plant Science Core Alliance (PSCA) 　and the Plant Transgenic Design Initiative (PTraD) by Tsukuba-Plant Innovation Research Center (T-PIRC), University of Tsukuba), 〇〇 University, ）による旨の文章を記載ください。

その際、掲載ページ等をお知らせください。

※大阪公立大学附属植物園の利用がある場合は記載方法が一部異なりますので、記載する文言については担当に事前にご確認願います。

※当該論文ないし報告等の別刷または写し１部を本センターに提出してください。また、研究成果の発表の際には、可能な限りアライアンスのロゴマークを付記してください。

（ロゴマークは、次のＵＲＬからダウンロードしてください。）

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/psca-logo.html>

**13．知的財産権の取扱い**

筑波大学知的財産規則（<https://www.tsukuba.ac.jp/images/pdf/2004hks12.pdf）を準用します>が、要望等あれば別途電子メールにてお問い合わせください。

**14.　その他**

１）本学以外の共同研究員が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また、学生が共同研究に参画する場合は、傷害保険「学生教育研究災害傷害保険」等に加入させてください。別途、保険証書の写しの提出を求められることがあります

２）申請にあたり、ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

　　また、各拠点の概要、活動内容等の詳細については、ホームページをご覧ください。

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター

〒３０５－８５７７　茨城県つくば市天王台１－１－１

電話：０２９－８５３－６００６　ＦＡＸ：０２９－８５３－７７２３

メール：ptrad@gene.tsukuba.ac.jp

ＨＰ：<https://www.t-pirc.tsukuba.ac.jp/>

大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当

〒５７６－０００４　大阪府交野市私市２０００

電話：０７２－８９１－２０５９　ＦＡＸ：０７２－８９１－２１０１

メール：[gr-bg-res@omu.ac.jp](mailto:gr-bg-res@omu.ac.jp)　ＨＰ：https://www.omu.ac.jp/bg/

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構会計係

〒６８０－０００１　鳥取県鳥取市浜坂１３９０

電話：０８５７－３０－１０１０　ＦＡＸ：０８５７－２９－６１９９

メール：[j\_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp](mailto:j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp)　ＨＰ：<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp>

岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当

〒７１０－００４６ 岡山県倉敷市中央２－２０－１

電話：０８６－４３４－１２４７　ＦＡＸ：０８６－４３４－１２４９

メール：[kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp)　ＨＰ：<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/>

琉球大学総合企画戦略部 研究推進課共同利⽤施設係

〒９０３－０２１３ 沖縄県中頭郡西原町字千原１番地

電話：０９８－８９５－８０３６　ＦＡＸ：０９８－８９５－８１８５

メール： [knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp)　ＨＰ：<https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

別紙１　令和７年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野、研究内容及び連絡先一覧

（筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **教　員** | **専門分野** | **研究内容** | **メールアドレス**  **…@u.tsukuba.ac.jp** |
| 教 授 菊池　彰 | 植物生理学 | 植物の環境ストレス耐性、ジャガイモの塊茎形成に関する研究 | kikuchi.akira.ft |
| 教 授 柴　博史 | 植物遺伝学 | オミクス解析による植物の生長・発生に関わる制御機構の解明 | shiba.hiroshi.gm |
| 教 授 福田　直也 | 蔬菜・花卉学 | 野菜類における機能性物質蓄積制御機構の解明 | fukuda.naoya.ka |
| 教 授 松倉　千昭 | 作物学･植物生理学 | 果実代謝生理、糖転流制御、バイオスティミュラント等 | matsukura.chiaki.fw |
| 教 授 三浦　謙治 | 植物分子生物学 | 植物による有用タンパク質生産及び植物におけるゲノム編集汎用化技術の構築 | miura.kenji.ga |
| 教 授 渡邉　和男 | 植物遺伝・育種学 | 遺伝資源の保全と持続的利用・バイオディプロマシー | watanabe.kazuo.fa |
| 准教授　小野　道之 | 植物発生生理学  バイオテクノロジー | 光周性と花成の分子生理学、  新規形質花卉・食べるワクチン開発の植物バイオテクノロジー | ono.michiyuki.fm |
| 准教授　康　承源 | 蔬菜・花卉学 | 花卉植物の芳香成分解析及び生合成関連遺伝子の機能解明  果菜類のストレス耐性(耐暑性,耐寒性,耐病性など)に関する研究 | kang.seungwon.ga |
| 准教授　壽崎　拓哉 | 植物分子遺伝学 | 植物微生物共生及び植物の環境応答機構の解明 | suzaki.takuya.fn |
| 准教授 Diana Buzas | 植物分子遺伝学, 　　エピジェネティクス | 長期細胞記憶、多年生作物と野生植物 | buzas.mihaela.ka |
| 助　教　小口　太一 | 植物分子・生理/植物バイオテクノロジー | 植物の環境応答機構/バイオマス増産 | oguchi.taichi.ge |
| 助　教　杉本　貢一 | 植物防衛･ﾘｿｰｽ管理 | トマトリソースを使った食害防衛機構の解明 | sugimoto.koichi.gu |
| 助　教　野﨑　翔平 | 植物生化学 | 生化学的解析による植物シグナル伝達機構の解明 | nosaki.shohei.ff |
| 助　教　野中　聡子 | 植物分子育種 | ゲノム編集技術を利用した作物の開発、果実発達生理解析 | nonaka.satoko.gt |

（大阪公立大学附属植物園）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **教　員** | **専門分野** | **研究内容** | **メールアドレス**  **…@omu.ac.jp** |
| 大学院理学研究科  教授　名波　哲 | 植物生態学 | 植物の多様な性表現と個体群維持機構に関する生態学的研究 | snanami |
| 大学院理学研究科  教授　伊東　明 | 植物生態学 | 植物の更新過程と多種共存機構に関する群集生態学的研究 | itoha |
| 大学院農学研究科  准教授　岡澤　敦司 | 植物バイオテクノロジー、作物保護化学 | 植物による有用物質生産と生物機能などの利用による作物保護に関する研究 | j21191y |
| 大学院理学研究科  准教授　小口　理一 | 植物生理生態学 | 環境の変化に対する植物の多様な応答について物質生産の視点から研究 | oguchi |
| 大学院理学研究科  准教授　厚井　聡 | 植物進化形態学 | 極限環境に適応した植物の形態進化に関する進化発生学的研究 | skoi |
| 大学院理学研究科  特任助教　廣田　峻 | 植物生態学 | 植物の種多様性・遺伝的多様性とそれらを創出する種分化過程に関する研究 | y22854u |
| 大学院理学研究科  特任助教　渡邉　誠太 | 植物系統分類学 | 植物の形態形質と遺伝情報に基づいた系統分類学的研究と、形質進化の解明 | seiwatanabe |

（鳥取大学乾燥地研究センター）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **教　員** | **専門分野** | **研究内容** | **メールアドレス**  **･･@tottori-u.ac.jp** |
| 教 授 　 黒崎 　泰典 | ダスト気候学 | ダスト（黄砂）の時間空間分布。  風、土壌・地表面状態とダスト発生（風食）の関係 | kuro |
| 准教授　谷口 　武士 | 微生物生態学 | 乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復 | takeshi |
| 准教授　木村 　玲二 | 気象学 | 大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明 | rkimura |
| 助　教　寺本　宗正 | 陸域炭素循環学 | 土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究 | teramoto.m |
| 助　教　石井　直浩 | 群集生態学 | 乾燥地における生物多様性と生態系機能の関係 | ishii-naohiro |
| 助　教　中山　理智 | 生態系生態学 | 窒素を中心とした陸域物質循環および物質循環に関連する微生物動態に関する研究 | nakayama.m |
| 教　授　藤巻 　晴行 | 乾燥地灌漑排水学 | 節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策 | fujimaki |
| 准教授　安　 萍 | 植物生理生態学 | 乾燥地における農業生産の向上および植生の回復 | an.ping |
| 准教授　石井　 孝佳 | 植物細胞遺伝学 | 染色体工学による新規作物改良技術の創造 | ishii.t |
| 教　授　恒川 　篤史 | 保全情報学 | 乾燥地における植物生産及び生態系変化のモニタリングとモデリング | tsunekawa |
| 教 授　坪　 充 | 気候リスク管理学 | 乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業 | tsubo |
| 准教授　井芹 慶彦 | 水文学 | 乾燥地・半乾燥地における水文気象モデリング | y.iseri |

（岡山大学資源植物科学研究所）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教　員  （★：グループリーダー） | 専門分野 | 研究内容 | メールアドレス  …@okayama-u.ac.jp |
| 教　授： 坂本　亘 ★ | 植物分子生物学、遺伝学 | 光合成と葉緑体の環境応答 | saka |
| 准教授： 松島　良 | 澱粉科学 | 澱粉生合成についての基盤研究と澱粉変異の育種利用 | rmatsu |
| 助　教： 小澤　真一郎 | 植物生化学、生理学 | タンパク質科学に基づいた光合成の環境応答機構の解明 | OzwSh1r |
| 助　教： 桶川　友季 | 植物生理学 | 光環境ストレス下における植物の光障害防御機構の解明 | okegawa |
| 教　授： 平山　隆志 ★ | 植物分子生物学 | 高等植物のストレス応答の分子遺伝学的研究 | hira-t |
| 准教授： 森　泉 | 植物生理学 | 気孔運動や葉内CO2拡散の生物物理学的解析 | imori |
| 准教授： 池田　陽子 | 植物分子遺伝学 | 植物におけるエピゲノム制御のメカニズムおよび環境との相互作用 | yikeda |
| 准教授： 杉本　学 ★ | 環境ストレス生化学 | 宇宙環境における植物の適応能力の解明と宇宙環境耐性植物の開発 | manabus |
| 助　教： 力石　和英 | 植物分子遺伝学 | コムギ種子休眠制御の解明 | riki |
| 教　授： 馬　建鋒 ★ | 植物栄養学 | 植物のミネラル輸送と制御 | maj |
| 准教授： 山地　直樹 | 植物分子生物学 | 植物の無機栄養素分配機構とその調節・制御機構の解明 | n-yamaji |
| 准教授： 三谷　奈見季 | 植物栄養学 | 植物のミネラル輸送体とその制御機構に関する研究 | namiki-m |
| 助　教： 小西　範幸 | 植物栄養学 | ミネラル輸送体の翻訳後制御機構の解析 | Noriyuki\_Konishi |
| 教　授： 且原　真木 ★ | 植物生理学、植物栄養学 | 塩ストレス応答や水輸送制御の分子および生理学的機能解明 | kmaki |
| 准教授： 佐々木　孝行 | 植物分子生物学、植物栄養学 | 植物特異的リンゴ酸輸送体による環境ストレス適応 | tsasaki |
| 助　教： 宇都木　繁子 | 植物分子生物学 | 種子形成過程におけるアクアポリンの水輸送調節メカニズムの解析 | utsugi |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教　員  （★：グループリーダー） | 専門分野 | 研究内容 | メールアドレス  …@okayama-u.ac.jp |
| 教　授： 鈴木　信弘 ★ | ウイルス学 | ウイルスを利用して植物糸状菌病を防ぐヴァイロコントロール | nsuzuki |
| 准教授： 近藤　秀樹 | ウイルス学 | 農作物生態系におけるウイルス多様性とその生態学的な存在意義 | hkondo |
| 准教授： 兵頭　究 | 植物病理学、ウイルス学 | 植物ウイルスの複製機構 | khyodo |
| 教　授： GALIS IVAN ★ | 化学生態学、植物-昆虫相互作用学 | 植食性昆虫に対する植物防御の分子機構の解析 | igalis |
| 准教授： 新屋　友規 | 植物免疫学、植物-昆虫相互作用学 | 植物の植食性昆虫による食害認識機構の解析 | shinyat |
| 教　授： 河野　洋治 ★ | 植物分子生物学、植物免疫学 | 免疫受容体と植物サイトカインを基盤とした植物免疫の理解 | yoji.kawano |
| WTT助教： 深田　史美 | 植物病理学、微生物学 | 植物病原糸状菌の感染生理および植物との相互作用の解析 | fumi.fukada |
| 准教授： 谷　明生 ★ | 応用微生物学 | 植物共生細菌の分離同定・非培養的解析・メタノール資化性細菌 | atani |
| 准教授： 植木　尚子 | 植物分子生物学、遺伝子工学 | 赤潮原因藻ヘテロシグマの生態生理と増殖制御に関する研究 | pdst7bim |
| 教 　授： 久野　裕　★ | 植物分子育種、植物遺伝資源 | 遺伝子改変技術を利用したオオムギの有用遺伝子の同定 | hiroshi.hisano |
| 准教授： 最相　大輔 | 植物育種、植物分子遺伝、集団遺伝 | 作物の遺伝的多様性を農業生態系への適応分化の観点から理解する | saisho |
| 教　授： 武田　真 ★ | 植物遺伝育種学 | オオムギの種子および植物形態に関する遺伝生理学的研究 | staketa |
| 助　教： 山下　純 | 系統分類学 | 野生植物遺伝資源の収集、保存、系統分類及び絶滅危惧種保全研究 | junyama |
| 教　授： 山本　敏央 ★ | 作物育種学 | 多様なイネ遺伝資源が持つ有用農業形質の探索と活用 | yamamo101040 |
| 准教授： 長岐　清孝 | 分子細胞遺伝解析学 | 動原体の解析および細胞遺伝学的エピジェネティック解析 | nagaki |
| 准教授： 古田　智敬 | 植物遺伝育種学 | 育種を加速させるバイオインフォマティクスツールの開発と利用 | f.tomoyuki |

（琉球大学熱帯生物圏研究センター）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **教　員** | **専門分野** | **研究内容** | **メールアドレス**  (…@...u-ryukyu.ac.jp)  AT→＠へ置き換えてください |
| 教 授　瀬尾　光範 | 植物生理・分子生物学 | 植物ホルモンの作用メカニズム、種子の休眠と発芽の制御メカニズム | mseoATcomb. |
| 准教授　岩崎　公典 | 遺伝資源応用学 | ファイトケミカルの併用による新たな代謝調節誘導に関する研究 | hiwasakiATcomb. |
| 教　授　高橋　俊一 | サンゴ礁生物機能学 | サンゴと褐虫藻の共生に関する研究 | tshunATlab. |
| 教　授　梶田　忠 | マングローブ学 | マングローブ植物の系統地理学的研究、熱帯植物の系統分類学的研究 | kajitaATmail.ryudai.jp |
| 准教授　渡辺　信 | マングローブ学 | 空撮と3Dモデリングを用いたマングローブ生理生態研究 | nabeshinATlab. |
| 准教授　内貴　章世 | 多様性生物学 | アカネ科を中心とした被子植物の植物系統分類学的研究 | naikiATlab. |